

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-740	16-117	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Lifestyle Factors and Early Clinical Outcome in Patients With Acute Stroke: A Population-Based Study. 急性期脳卒中患者における生活習慣因子と早期臨床アウトカム：一般住民を対象とした検討		
<b>執筆者</b>		
Ingeman A, Andersen G, Thomsen RW, Hundborg HH, Rasmussen HH, Johnsen SP.		
<b>掲載誌</b>		
Stroke. 2017 Mar;48(3):611-617. doi: 10.1161/STROKEAHA.116.015784. Epub 2017		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
肥満、喫煙、脳卒中、転帰		28093531
<b>要 旨</b>		
<b>背景：</b> 肥満や飲酒、喫煙等の生活習慣が脳卒中の危険因子となることが知られている。しかし、生活習慣と急性脳卒中後の早期における転帰との関連については、先行研究において一致した見解が得られておらず、また研究規模、対象者、生活習慣因子、転帰の設定の面でも十分とは言えない。そこで本研究では、急性期脳卒中患者における生活習慣因子と早期臨床アウトカムの関連について検討した。		
<b>方法：</b> デンマーク国内で登録された一般住民 560 万人のうち、2003 年から 2011 年までの初発の脳卒中患者 82,597 名を対象とした。入院時の body mass index、喫煙習慣（生涯非喫煙、現在喫煙、禁煙）、飲酒量（男性は 21、女性は 14 ドリンク/週以下か、それより多い）の組み合わせによって、健康的、やや健康的、やや非健康的、非健康的な生活習慣に分類した。脳卒中の転帰として、重症度、肺炎、尿路感染症、30 日以内の死亡との関連を解析した。重症度の評価には、Scandinavian Stroke Scale スコアを用いた。統計解析にはロジスティック回帰および Cox 回帰分析を用いた。		
<b>結果：</b> 重症の脳卒中が 18.3%、肺炎が 7.8%、尿路感染症が 12.5%、30 日以内の死亡が 9.9%に認められた。非健康的な生活習慣の男性では、重症脳卒中および死亡のリスクが低かったが（各々、調整オッズ比 [OR]0.73；95%信頼区間 [CI][0.63-0.84]、調整 OR 0.71；95%CI[0.58-0.87]）、女性では関連を認めなかった（各々、調整 OR 1.14；95%CI[0.85-1.55]、調整 OR 1.34；95%CI[0.90-1.99]）。非健康的な生活習慣は入院時の肺炎および尿路感染症と関連を認めず、性差も認めなかった。低体重は 30 日以内死亡と関連していた（男性：調整 OR 1.71；95%CI[1.50-1.96]、女性：調整 OR 1.46；95%CI[1.34-1.60]）。		
<b>結論：</b> 健康的な生活習慣と脳卒中の良好な転帰との関連は見られず、特に男性では傾向がなかった。しかし男女とも、低体重は脳卒中後の転帰不良リスクを高める可能性が示唆された。		